

HAP ワーキングセミナー 2004

エイジングとうつ ～更年期世代の女性を中心に～

2004年10月30日、HAPワーキングセミナー2004が「エイジングとうつ～更年期世代の女性を中心に～」をテーマに開催されました（於：東京医科歯科大学、東京都）。当日は、約70名の参加のもと、活発なディスカッションが行われ、コンセンサスを得ることができました。当日のプログラムとコンセンサスを以下に掲載します。

テーマ	エイジングとうつ ～更年期世代の女性を中心に～
開催日時	2004年10月30日
会場	東京医科歯科大学
モデレーター	大藏 健義 先生 獨協医科大学越谷病院 産科婦人科 教授 野村 総一郎 先生 防衛医科大学校 精神科学講座 教授

【プログラム】

1. Opening Remarks (13:00 ~ 13:05)
麻生 武志 先生 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 生殖機能協関学 教授
2. 概略講演 (13:05 ~ 13:30)
「うつ病の本態と女性医学における現況」 野村 総一郎 先生 防衛医科大学校 精神科学講座 教授
3. Overview & Discussion (13:30 ~ 16:45) 〈講演：20分〉
1. 薬物療法 更年期のうつ病をどのように治療するか 田島 治 先生 杏林大学 保健学部精神保健学教室 教授
2. 産婦人科における更年期うつに対するアプローチ 赤松 達也 先生 医療法人社団養生会 赤松レディースクリニック 院長
3. 更年期障害とうつ病 郷久 鉦二 先生 医療法人社団 朋佑会札幌産科婦人科 理事長
〈Coffee Break 14:30 ~ 14:45〉
4. 中高年女性の心理とうつ 加茂 登志子 先生 東京女子医科大学 附属女性生涯健康センター、精神医学教室 教授
5. 更年期女性のうつ病の特徴 ～症例を通して～ 相良 洋子 先生 さがらレディースクリニック 院長
6. プライマリケアにおける更年期うつ病の診療 松島 英介 先生 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 心療・緩和医療学分野 助教授
〈Discussion：60分〉
大藏 健義 先生 獨協医科大学越谷病院 産科婦人科 教授 野村 総一郎 先生 防衛医科大学校 精神科学講座 教授
4. Conclusion & Consensus (16:45 ~ 17:10)
大藏 健義 先生 獨協医科大学越谷病院 産科婦人科 教授 野村 総一郎 先生 防衛医科大学校 精神科学講座 教授

【コンセンサス】

- ◆更年期に見られる「うつ症状」は多様であり、「うつ病」に至らない「うつ状態」「や「うつ病」(大うつ病性障害、気分変調性障害、双極性障害など)が含まれる。
- ◆「うつ病」の診断は、国際的コンセンサス(DSM-IV)などに従って行う。
- ◆女性の「うつ病」生涯有病率は約20%であり、更年期障害の約25%に合併している。
- ◆「うつ病」の治療は標準的なガイドラインに従い、第一選択薬として抑うつ薬(SSRIやSNRIなど)を用いるが、単剤を十分量、十分な期間使用する。
- ◆更年期女性の抑うつ症状にERT/HRTが有効であるとの報告が増えているが、ERT/HRTを選択する目安については、まだコンセンサスが得られていない。
- ◆うつの治療の一環として、非薬物的介入としての心理的アプローチが必要である。
- ◆産婦人科医・精神科医・心療内科医間の相互連携を密にして診療に当たるべきであり、必要な時には速やかにそれぞれの専門医に紹介する

共催：NPO法人Healthy Aging Projects for Women (ヘルシーエイジングプロジェクト)
グラクソ・スミスクライン(株) 藤沢薬品工業(株)

協賛：旭化成ファーマ(株) キッセイ薬品工業(株) 帝国臓器製薬(株) 明治製菓(株)
(株)ヤクルト本社 ワイス(株)

(五十音順)